



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2

毎週 日曜日 発行
インターネットでも
ご覧いただけます。

<http://www.jcp-ktib.com/>

ご相談は
お気軽に

市議会議員
福田 明
43-0468

市議会議員
鈴木やす子
42-2462

終戦の日に訴え

日本共産党市議団が街頭から



8月15日

8月15日の終戦記念日、日本共産党市議団（福田明、鈴木やす子）は街頭から「二度と戦争のない社会を」と訴えました。

この日の朝、内外からの批判や憂慮を押しつけて、小泉首相が靖国神社に参拝を強行しました。市議団は「A級戦犯までも神として

まつり、過去の日本の戦争は正しかった」と今でも宣伝する靖国神社に首相が参拝することは絶対に許せ

ない行為であり、強く抗議する」と述べ、「日本はアジアに生きる国として、侵略の事実を真摯に見つめ、憲法九条を生かす国づくりを力をつくすべきである」と訴えました。街頭ではじつと聞き入る市民の姿がありました。

難病患者福祉見舞金が増額

届出手続きも改善される

今年度から「市難病患者福祉見舞金」の支給額が、

前年までの年額1万円から1万5千円に引き上げられました。茨城県難病患者連絡会の要請や、日本共産党市議団の繰り返し質問等で実現したものです。

なお、せっかく制度がありながら、これまで見舞金の実際の受給者は約50%と低いものでした。日本共産党市議団は「額の引き上げと同時に、対象者の多くが受給できるように制度の周知徹底をはかるべきである」と、この面でも改善を

求めてきました。

今年度より、難病患者本人に「北茨城市難病患者福祉見舞金」についての書類が保健所から郵送されるようになりました。さらに患者からの届出が郵送でもよくなり、見舞金受給の申込者は現在までに70%になっています。申し込みは9月30日までです。

党市議団は「患者の立場にたつて市が制度改善に努めたことはうれしい。今後この制度のよりいっそうの改善のために力をつけたい」と述べています。

「マスタープラン」とは

前号で「マスタープラン」に関する地域懇談会のようすをお知らせしました。正式には「北茨城市都市計画マスタープラン」といい、都市計画の長期的、総合的な将来像を明らかにするとともに、その実現に向けた基本方針を定めるものです。

本市においては、都市計画区域(4305ha)を対象とし、2025年を目標年次としています。一昨年から3ヶ年計画で、来年3月までに策定されることになっています。

策定委員会は、商工会や漁協、社協などからの代表、および市の部長級など合わせて17名で構成され、さらに作業部会が設けられています。市民の意向を把握するために、1000名を抽出して住民アンケートを実施。その回収率は約40%でした。

示された全体構想案によれば、「水と緑と大地」か



けがえのない歴史と文化を大切に 一人ひとりが生き生きと誇りをもって生活し、未来をささえる子供達を健全にはぐくみ、そして訪れる人がほほえむ都市をみんなで作ります」という理念のもとに、将来像として「豊かな自然に育まれ、いきいきとした暮らしのできる都市「北茨城」を掲げています。

これにもとづいた地域懇談会が3ヶ所で開かれ、参加者は計28名。また、すでに市民からの意見受付は8月11日をもって締め切られています。20年後の北茨城をどう構想するのか、活発な議論が期待されます。